

## 3年生 段階別の教科アドバイスについて

各教科から受験に向けて現在取り組んでほしい内容を記載しました。

以下の文書を参考にして、自己実現を目指し、休校中の学習を充実したものにしてください。

目安 ①難関十大学と医学部希望者向け

(北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪、九州、一橋、東京工業、神戸)

②金沢大学程度の希望者向け

③その他の国立大学希望者向け

国語	現代文	<p>【①②③共通】文章の論理構造（段落毎の要点と段落同士のつながり）を意識して、読解のトレーニングを行う。また、『頻出現代重要語700』で語彙を増やす。問題だけでなく難解な新書や社説を読むのも速読、理解力の向上につながる。共通テストで点数が取れる勉強にする！これに加え、</p> <p>① 志望大学の過去問を必ず確認。文章量、記述量などのチェック。できれば、一度解いてみる。（年度の古いものが望ましい）記述対策で、教科書の要約や他大学の傾向に近い過去問の記述問題を解く。</p> <p>②③ 模擬試験レベルの記述ができれば、問題ないので、2年次の模試を再度復習する。</p>
	古文	<p>基本的な事項を徹底的に押さえる。<b>単語、助詞・助動詞の活用や識別</b>、敬語、和歌の解釈等について、単語帳、文法書を熟読して押さえる。主語、目的語を補いながら読解することを徹底する。教科書、2年次の模試を見直すことで自分の理解できていない部分を明らかにする。共通テストで点数が取れるように。これに加え</p> <p>①原則現代文と同様。古文は短い文章ほど、行間を読み取る力や古典常識を駆使して解く必要があり、共通テスト対策で、対応しきれないので、様々な記述問題を解く。</p> <p>②③ 現代文と同様。</p>
	漢文	<p>古文同様、基本的な事項を徹底。漢文必携を使って句法を暗記。日本語とは語順が違うことを意識して文章を読解。二次試験で漢文がない場合もあるので、志望大学の過去問を確認すること。二次試験がある場合は、白文からの書き下し文、現代語訳、要約などの記述問題を意識した教科書の予習をする。また、中国思想などの理解も必要な場合があることに注意する。</p>
数学		<p>①既習範囲の教科書の理解＋既習範囲のチャート基本例題、重要例題、EXERCISE</p> <p>②既習範囲の教科書の理解＋既習範囲のチャート基本例題、重要例題</p> <p>③既習範囲の教科書の理解＋既習範囲のチャート基本例題</p> <p>上記の内容を完璧にすること。</p>

英語	<p>&lt;①②③共通&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通テストはリスニングの配点が大きくなるため、必ずリスニングを毎日行うこと！！リスニング課題をどんどん進めてもよい。</li> <li>・シス単は、第1章～第3章、第5章（多義語）は必須でやること！！語彙力は4技能（話す・聞く・読む・書く）すべてに係わってきます。日本語を見て英語、英語を見て日本語がすぐに言えるまで何度も繰り返しやりましょう。</li> <li>・課題などが終わった場合は、問題集などにも取り組み苦手項目の克服に力を入れよう！構文150の右の問題を進めてもよい。</li> </ul> <p>①・語彙力upを！シス単：すべての章（上記プラス第4章含む）に取り組もう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの模試をやり直し苦手分野を徹底的に潰すこと。3年生で配布された模試の過去問（記述）に取り組もう。※目安となる点数＝80％以上</li> <li>・赤本に取り組もう！志望校の赤本に取り組み、出題傾向を分析し、問題に慣れていこう。また、解説を読んで、間違えた部分を中心にしっかりと直しをやり、知識を蓄積していこう。時間も正確に測ること。</li> </ul> <p>②・過去問に取り組もう！</p> <p>今までの模試をやり直し苦手分野を徹底的に潰したり、3年生で配布された模試の過去問（記述）に取り組もう。※目安となる点数＝65％以上</p> <p>③・過去問に取り組もう！</p> <p>今までの模試をやり直し苦手分野を徹底的に潰したり、3年生で配布された模試の過去問（記述）に取り組もう。※目安となる点数＝55％以上</p>	
理科	生物	<p>&lt;①②③共通&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習範囲の知識問題は確実に解けるようにしよう！（リードαの基礎CHECK&amp;基本例題はスッと答えが浮かぶように。）</li> <li>・分からない分野は図録で確認しよう。</li> </ul> <p>※①に該当する生徒は、リードDの問題にも触れておこう。図録にしか載っていない問題も出題されることがあります。</p>
	化学	<p><small>埋糸：これから手首する無機化学は見える事がたくさんあり取後まで古力する分野です。</small></p> <p>【①②③共通】無機化学分野の学習を各自で進めてください。</p> <p>(1)教科書の内容をまとめる。教科書に書いてあることはすべて入試の範囲です。</p> <p>(2)教科書で学習したことを問題集セミナー化学で確かめる。</p> <p>(3)さらに重要問題集の入試問題に取り組む。</p> <p>文系化学・化学基礎選択者  <del>ピーライン化学基礎の問題をやってください</del></p>
	地学	<p>①教科書の図表は数値、単位までしっかり確認すること。まさかこれを出す！？ということが近年よくあります。</p> <p>②中学校既習内容が弱点となる生徒が意外と多い（特に天文）基礎・基本を大切に、幅広い復習を。</p> <p>③教科書に記載されていない内容が出題されることはない。難問に取り組む前に、まず教科書をよく読み込め。</p>
	物理	<p>①『良問の風』（持っていない人は書店で購入すべし）の既習範囲を1周。本当は2周してほしい。それが終われば、平行して『名門の森』や『重要問題集』に挑戦。良問の風の問題が解けるようになれば名古屋大学入試に対応できる。</p> <p>②『良問の風』を徹底的に。何度も何度も繰り返し解く（最終的には5周くらい）。らくらくマスターやセミナーで満足してはだめ。</p> <p>③理解の甘い範囲をつぶしておく。問題が解ける解けないではなく、式の導出、本質の理解に努めること。「なんとなく問題は解ける」は決していい状況とはいえない。力学分野は大部分が既習であり、波動分野は全範囲学習済である。少なくともこれら既習範囲は受験レベルまで引き上げておくこと。</p>

	日本史	<p>①とにかく、先に先に進めてください。特に現代史！</p> <p>②とにかく、先に進めてください。江戸時代終わりまで！</p> <p>③とにかく、先に進めてください。江戸中期くらいまで！</p> <p>問題演習は①②③ともにまだやらなくていいです。今は、とにかく先に進めることが一番。</p> <p>①に関しては、日本史担当者へ個別に連絡してください。</p>
	世界史	<p><b>【①②③共通】</b></p> <p>・『要点マスター世界史確認問題集』を使用するなどして既習範囲の「基本用語」を<b>徹底的に</b>確認しましょう。完了後、今後の学習範囲の教科書をどんどん読み進めましょう（<b>疑問点を大切に！1回目は、マーカーを使わない。進度の目安としては、例年、夏休み前までに、第二次世界大戦まで進みます。</b>）。個別試験で、論述が必要な人は、授業担当者まで連絡をしてください。</p>
	地理	<p>共通テストで8割以上を目指す。自然科学と社会科学の成果で教科書は構成されている。その深さを知ることが大学に行くことの目的でもある。まずは意欲的に②③に取り組もう。</p> <p>①初見となるような統計資料であっても必ず解法のヒントは教科書にある。出題の意図を予測し、9割以上を目指す。</p> <p>②統計表・図(地図)・写真を用いた出題が基本です。教科書の本文だけでなく、統計表・図(地図)・写真を「読む」ことが重要。</p> <p>③普段から時事問題に幅広く関心を持つことが重要。それが教科の内容と結びついた時に加速度的に理解と得点が伸びる。</p>
社会	倫理	<p><b>【①②③共通】</b></p> <p><b>先取り学習</b>が重要。</p> <p>・『教科書』を読み進めていく。・『新 倫理ノート』で内容を確認。・『4ステージ演習ノート』の問題を解き、問題に慣れるとともに知識をより確かなものにする。</p>
	倫・政	<p><b>【①②③共通】</b></p> <p>上記「倫理」の学習に加え、1年時に学習した「現代社会」の復習を行う。</p> <p>・『要点マスター 現代社会 演習ノート』のマーク形式の問題を中心に演習を進める。わからない箇所は、まず『教科書』そして『資料集』に立ち帰って確認する。</p>
	政経	<p><b>【①②③共通】</b></p> <p>科目名は異なりますが、まずは1年時の「現代社会」の復習を行ってください。</p> <p>・『要点マスター 現代社会 演習ノート』のマーク形式の問題を中心に演習を進める。わからない箇所は、まず『教科書』そして『資料集』に立ち帰って確認する。</p>
	現代社会	<p><b>【①②③共通】</b></p> <p>1年時の「現代社会」の復習を行ってください。昨年1年間のブランクを取り戻しましょう。</p> <p>・『要点マスター 現代社会 演習ノート』のマーク形式の問題を中心に演習を進める。わからない箇所は、まず『教科書』そして『資料集』に立ち帰って確認する。</p>